



病状説明

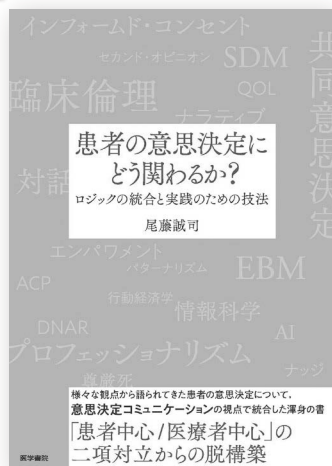
ケースで学ぶハートとスキル

天野雅之＝著

定価 3,960 円／A5 頁・310 頁／医学書院／2020

本特集の企画者・天野雅之先生による「患者説明→共同意思決定」のテキスト。「心と技」をセオリー化した画期的な1冊。

病状説明は「説得」でも「同意を得る」だけでもない。患者と医療者がそれぞれの情報と価値観を共有し、共に意思決定をしていく「共同意思決定」の場だ。本書は、説明全体を組み立てるフレームワークや、すぐに使える会話上の技を数多く掲載。さらにリアルなケーススタディを通して実践的に学ぶことができ、「病状説明の準備・実践・教え方」を楽しく学べるようにデザインされた“病状説明の教科書”である。



患者の意思決定にどう関わるか?

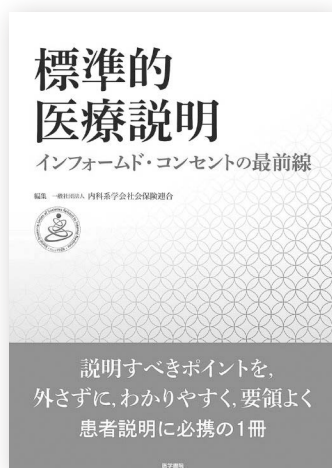
ロジックの統合と実践のための技法

尾藤誠司＝著

定価 4,180 円／A5 判・248 頁／医学書院／2023

医療に関する選択技を前に医療者が行うべきことは、「意思決定」でも「意思決定支援」でもなく、「意思決定関与」である。

臨床倫理、EBM、プロフェッショナリズム、共同意思決定（SDM）、ナラティブなど、これまでさまざまな切り口で示されてきた理論をもとに、「患者にとって最善の意思決定」に、専門家としてどのように考え、関わっていくかをまとめた渾身の書。AIの発展、新型コロナの流行など、社会が変わっていくなかで、これからの患者－医療者関係のあり方を示す1冊だ。さあ、意思決定のテーブルへ！



標準的医療説明

インフォームド・コンセントの最前線

一般社団法人 内科系学会社会保険連合＝編

定価 5,940 円／A4 判・368 頁／医学書院／2021

医療説明は患者・家族の意思決定に不可欠であるが、時代とともに医療が複雑化すればするほど説明の難易度も上がる。本書では、内科分野の主要な検査・治療について、「病状、目的、検査や治療の方法、主な合併症・副作用、利益と不利益、代替法、費用」という流れで、患者さんが理解しやすい説明内容をコンパクトに例示。内科系疾患や悪性腫瘍のみならず、精神疾患・小児疾患・産婦人科疾患に至るまで取り上げ、各領域の専門家が最新の医療知識と手技を踏まえて説き起こしている。



新訂版 緊急 ACP

悪い知らせの伝え方、大切なことの決め方

伊藤香、大内啓＝著

定価 2,640 円／A5 判・184 頁／医学書院／2022

「あらかじめ」ではなく、救急外来や集中治療室などの「いざという場面で」行う advance care planning = 緊急 ACP。説明したはずなのに同じ質問が繰り返される、感情があふれて話が進まない…。患者も家族も混乱するなかで、いかに患者の価値観に沿った治療のゴールを見出すか。意思決定支援のためのコミュニケーションスキルトレーニング“VitalTalk”から、緊急 ACP の進め方を考える。



まとめない ACP

整わない現場、予測しきれない死

宮子あずさ＝著

定価 2,200 円／A5 判・168 頁／医学書院／2021

「最期をどこで、どのように迎えたいか」を話し合うプロセス、それが advance care planning (ACP)。ACP が、延命治療を諦めさせるためのものであってはいけない。いかに死が近づいている人であっても、その人が生きようとする気持ちを支えたい。予測どおりにいかない人の生き死にを、看護師として、家族として見てきた著者が考える、「無理にまとめない ACP」の進め方がわかる。



Advance Care Planning のエビデンス

何がどこまでわかっているのか？

森 雅紀、森田達也＝著

定価 2,640 円／B5 判・204 頁／医学書院／2020

人生の最終段階の医療・ケアについて、本人と家族、医療者が繰り返し話し合うプロセスを指す ACP。言葉は広まっているものの、「言うは易く行うは難し」。不確実な将来を話し合うことは、誰にとっても難しい。どうやって話し合いのきっかけをつくるか？ どうすれば患者と家族の希望に沿った医療・ケアを提供できるか？

国内外で積み重ねられてきたエビデンスが、ACP を深めるためのヒントを与えてくれる。患者と家族の幸せにつながる ACP 実践のために、知っておきたいことがここにある！



今月の特集関連本



薬の上手な出し方 & やめ方

矢吹 拓 = 編

定価 4,400 円 / A5 判・322 頁 / 医学書院 / 2020

本特集にご執筆の矢吹 拓先生 (p.539) 編集の 1 冊。「薬を出す／やめる」の臨床判断、どうしていますか？

なんとなく出し続けていたこの薬、他科でもらっているあの薬、必要？ やめる？ 続ける？ 医師と薬剤師の共同作業による処方見直しのポイントを列挙。「やめる根拠」と「続ける根拠」、「上手な処方」や「減薬」のヒント、そして薬の話にとどまらず「診療のコツ」がそこここに。専門医による「上手な処方指南」もあります。答えは 1 つではない。正しい答えがあるとも限らない。けれど、考え続ける先に道はある。



「誤診」はなくせるのか？

実践知としての診断エラー学の世界

Pat Croskerry, Karen S. Cosby, Mark L. Graber, Hardeep Singh = 原著

綿貫 聡、徳田安春 = 監訳

定価 5,500 円 / A5 判・456 頁 / 医学書院 / 2019

本特集にご執筆の綿貫 聡先生 (p.545) の監訳書。「診断」は究極の臨床判断！

どんな名医でも診断を“誤る”ことはある。しかしそれは医師の能力不足だけで起こるわけではない。認知科学・行動経済学・脳科学などの最新研究を用い、目に見えない、いくつもの診断エラーの要因を 1 つずつ解明する。診断を客観的に分析した世界的名著の邦訳版。



外来・病棟・地域をつなぐ

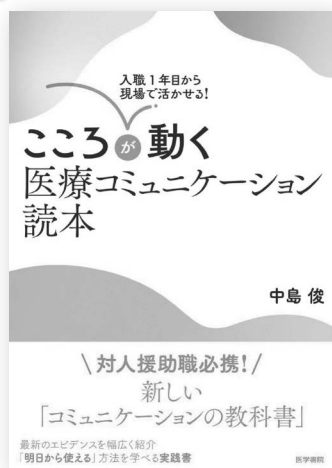
ケア移行実践ガイド

小坂鎮太郎、松村真司 = 編

定価 3,850 円 / B5 判・184 頁 / 2022

救急外来、ICU、急性期・慢性期病棟、回復期病棟、退院、そして地域へ……。1 人の患者に複数の医療者・施設が関わることが一般的となり、各セクションでの連携が求められている。しかし療養場所や担当者が変わるなかで、重要情報が抜け落ちる場合もあるのが現状だ。本書では、スムーズな「ケア移行」の実現に必要なカルテや指示簿、診療情報提供書の書き方など、情報を正確に伝え、医療の質を落とさないためのノウハウを凝縮。

本特集にご執筆の柏木秀行先生 (p.551) も執筆者の 1 人。



入職1年目から現場で活かせる！

こころが動く医療コミュニケーション読本

中島 俊＝著

定価 2,420 円／A5 判・152 頁／医学書院／2023

『週刊医学界新聞』の人気連載に大幅加筆、書き下ろしを加えて書籍化した。新進気鋭の研究者である著者ならではの視点で、最新の研究内容やホットトピックを豊富に盛り込み、21のテーマを通じて「こころが動く」方法論をプラクティカルに体得できる実践書。入職1年目からベテランまで、すべての対人援助職が現場で活かせる内容となっている。これからの医療コミュニケーションは“経験則”ではなく、“エビデンス”で身につける！ 対人援助職必携の1冊。重版出来！